

NTTデータ「AIを活用した発明発掘支援」導入・活用ガイド

R&D現場

潜在的な発明の取りこぼしを防止

R&D側の「技術的な工夫」をAIが構造化し、知財化されないまま埋もれるのを防ぎます。



潜在的な発明

取りこぼし

業務変革: 知財プロセスのボトルネック解消

知財部門

知財担当者を戦略的業務へシフト

不足情報の聞き取りや文書整形などの事務負担を減らし、権利化戦略や競合分析に注力可能にします。



導入判断における「3つの必須チェック項目」



発明者性を証明する 監査ログの保持

自然人による発明寄与を立証するため、AIの出力と人間の修正履歴をすべて記録する必要があります。



厳格なデータ ガバナンスの契約化

未公開発明の学習利用禁止、テナント隔離、保存地域など、営業秘密を守る要件を明確にします。



段階的導入 (PoC) によるROI測定

定量的な削減率が未公表のため、まずは限定領域で自社の業務ベースラインと比較検証すべきです。

導入の成功を測るための主要KPI例



提案書作成の中央使、
ヒアリング回数
(直接的な工数削減
効果の測定)



発明点の抽出漏れ率
(Recall)、事象認識率
(AI回答の正確性と
信頼性の担保)



相談から正式な発明届
への転換率
(潜在発明の顕在化と
質の向上)